

あたら

A d a t a r a

題字 所長 筒井 昇
Photo 紅葉の安達太良山

二本松青年海外協力隊訓練所 JICA二本松ニュースレター

2007年秋号(通巻8号)
—季刊年4回発行—

会津若松市長 (菅家 一郎氏) ごあいさつ ...②

JICAデスク —徒然なるままに... ③

平成19年度 教師海外研修「 Bangladesh 」

JICA二本松 「夏のオープンハウス！」 ...⑤

シリーズ連載 **せかいのく**にから「タンザニア」...⑥

福島出身の青年海外協力隊、候補者3名 ...⑦
シニア海外ボランティア

訓練が69歳まで拡大!

西郷村に滞在中の研修員

西郷村に滞在中の研修員(手前からバブアニューギニア、エチオピア、ミャンマー、ニカラグア)が、南湖公園で茶道に挑戦しました。11/29まで家畜改良センターで養鶏を学んでいます。

会津若松市長のあいさつ

会津若松市の国際交流



会津若松市長
菅家 一郎氏

本市は、平成19年度を初年度とする長期総合計画において、国際的な広い視野を持った人づくりと外国人が暮らしやすい環境の整備を進め、互いの文化を認め合い共生する平和な社会を目指すことを目標に掲げており、会津若松市国際交流協会等と連携を図りながら、各種施策に取り組んでいます。

また、海外都市との都市間交流として、平成3年に中国荊州市と友好都市を締結、平成17年11月には河東町がアメリカ合衆国リーサミット市と締結していた姉妹都市関係を合併により引き継ぎ、昨年には北マリアナ諸島サイパン市と親善交流都市を締結しました。

本年は、10月に第8回目となる青少年友好交流訪中団として市内中学生を中国荊州市へ派遣し、また11月には市民の皆様と共にサイパン市を訪問する予定であります。荊州市とは、戦時中本市の白虎部隊が沙市市（現荊州市）に駐屯したという縁があり、またサイパン市とは、本市出身の松江春次氏がサイパン島で製糖事業を成功させ現地に繁栄をも

たらしたという縁があります。交流事業を通じて、両市の歴史的な絆を再認識するとともに、相互の理解と友好を深めてまいりたいと考えております。

今後とも、国際化施策を推進し、国籍や民族を問わず、すべての市民がその違いを認め合い、尊重しあうことのできる共生の地域社会づくりを目指してまいります。

会津若松市長 菅家 一郎



▲会津若松市・サイパン市 親善交流都市締結式
(平成18年9月会津若松市にて)

ラオスの研修員が被災者に義援金

Welcome! ようこそ、ニッポンへ

青年研修事業（観光）



「少しでも被災した方たちの役に立てれば」。ラオスの観光産業の今後を担う世代を対象にした JICA 青年研修事業（研修員 12 人）の 7 月 22 日の閉講式。その一週間前に発生した中越沖地震の被災者への義援金として、ラオスの研修員たちから「新潟の被災者のために」と一万円が、菅家会津若松市長に手渡されました。

7 月 7 日から会津若松市を拠点に、環境や地場産業と結び付けた観光振興を学んでいた研修員。会津でも大きな揺れがあり、初めての体験でかなり驚いた様子です。さらに、新潟で多くの被害が出たことを知り、仲間で自発的に義援金を集めました。彼らの暖かい心に、菅家市長もがっかりと握手を交わしました。



▶ラオスの研修員（左）から義援金が菅家市長に手渡された。

魔女に扮して盆踊り交流

留学生セミナー

岳温泉街に怪しげな魔女登場。これは、JICA 長期研修制度などで日本各地の大学、大学院で勉強をしている留学生たち。8月に「フォレストパークあだたら」等で行われたセミナー「地域社会の環境保全の取組み」に参加したベトナムやインドネシアなど7カ国19人の面々。様々な講義に加え、炭焼きや、夕日ヶ丘森花倶楽部との森林整備なども体験した後、「福島の夏の思い出に」と仮装盆踊り大会に出場。岳温泉の住民や観光客たちと暑く長い夜の交流を満喫しました。



JICAデスク — 徒然なるままに…

平成19年度教師海外研修

この夏、小・中・高等・養護学校の教員5名がバングラデシュで目の当たりにした開発途上国の現状。参加した先生方はこれから各学校で国際理解教育や開発教育に積極的に取り組んでいきます！12月15日～16日JICA二本松で開催される「ふくしまグローバルセミナー2007」でもバングラデシュを題材にした講座を設けますので楽しみに。

福島県立富岡養護学校 馬場由佳子

今回、県内教員5名を含む東北地区9名の教員でバングラデシュの現状や日本の国際協力の現場を視察しました。マイクロクレジットで少額融資を受け生活向上を目指す女性や、よりよい授業をしようと努力す

る小学校教員など、バングラデシュの方々が自立的に発展するため努力している姿が印象的でした。

日本にいても地球のために一人一人ができることがたくさんあります。児童生徒や地域の方々と一緒に考え続けていきたいです。



▲JICA母性保護サービス強化プロジェクトで貧しい妊婦を援助するチェアマンの話を聞く。

▶現地NGOが運営するストリートスクールへ通う子どもたち。



国際協力やNGOのご相談は…

JICAと福島県の連携促進など、各種ご相談を「国際協力推進員」が承ります。ご連絡は下記までお願いします。

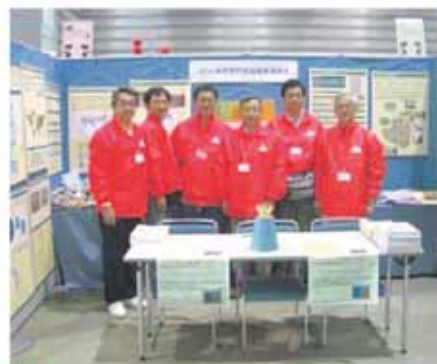
財福島県国際交流協会 JICA デスク 橋本千賀子
TEL : 024-524-1315 / FAX : 024-521-8308
URL <http://www.worldvillage.org/>

JICA帰国専門家福島県連絡会

代表幹事 松谷 要寿

JICA、国・県等から派遣されて、各地の開発途上国において専門の技術協力を行い、帰国した後、福島県内に在住する専門家の団体で、14年前に設立されました。専門分野は、農業（栽培、かんがい排水、家畜、林業）、工学（電子、鋳造）、医学・医療（ウイルス、医療

器材）等多方面に及び、現在46名の会員がおります。年1回の総会、各種の国際協力・交流事業への参加等を通じて、国際協力に寄与したいと思っております。年1回の会報「Support」を発行しています。交流事業等の開催には気軽に声を掛けてください。



▲ふくしま地球市民フェスティバル2007にて活動紹介をする連絡会メンバー（右から3番目が松谷代表幹事）



所長雑感

JICA二本松所長 筒井 昇

◆所長イラスト：青年海外協力隊 平成18年度1次隊 廣瀬智子さん

先日、二本松市内で「二本松少年隊と世界の少年兵～なぜ子供たちが戦うのか」というタイトルのパネルディスカッションが開かれ、当訓練所からはベトナム語のH.Tチェーン語学講師と私が参加しました。チェーン講師からは自ら経験した「ベトナム戦争」についての基調講演があり、その後のディスカッションのパネラーとして私が世界の少年兵の現状について報告しました。

主催者側の意図としては、二本松市の子供たちに平和の大切さを平和教育の一環として、二本松少年隊と世界の少年兵を結び付けて考えてもらおうと企画したのですが、パネラーが夫々の立場で報告したため、戊辰戦争で犠牲となった二本松少年隊の話とベトナム戦争や世界の少年兵の話がかみ合わず、なんともまとまりのないパネルディスカッションになってしまいました。

地元の二本松市民にとっては、武士道に殉じた二本松少年隊は郷土の誇りであり、戊辰戦争少年隊顕彰行事の一環として次代を担う子供たちに語り継いでいかなければならないことは私にはよく理解できるのですが、なぜ100年以上前に起こった戊辰戦争にこれほどまでにこだわるのか、県外出身者の私にはよく理解できないことなのです。二本松市民の皆様には大変申し訳ないのですが、私は当地に赴任してくるまでは二本松少年隊のことはまったく知りませんでしたし、県内の方を除いて大方の日本人もほぼ私と同じような認識ではないかと思えます。こうしたイベントを通じ、子供たちが郷土の

歴史や伝統を学び継承することは非常に重要なことであると思うのですが、果たしてそれだけでいいのだろうか、との疑問はいつも感じています。

われわれは現実世界で起こっている紛争、南北の経済格差、貧困やエイズの蔓延、地球温暖化など地球規模の課題について考え、何らかの行動を起こすことが必要ではないかと思えます。現在、世界には1日1ドル以下で生活している人が12億人いるといわれており、こうした人々が住んでいる開発途上国、とりわけLLDCと呼ばれる後発開発途上国が34ヶ国も集中しているアフリカでは紛争が多発し、多くの人々が戦火に巻き込まれ、傷ついたり亡くなったりしています。日本ではイラク戦争やアフガニスタン戦争はよく知られていますが、アフリカなど地理的にも心理的にも日本から遠く離れた地域の紛争に関してはほとんどの日本人は関心がないようです。現在、国連や欧米でも関心の高まっているスーダンのダルフール紛争やソマリア内戦、少年兵の存在について、果たしてどのくらいの日本人が知っているのでしょうか。

現在、世界には30万人以上の少年兵が存在するといわれていますが、実際はこの数字よりずっと多いかもしれません。私がかつて駐在したりベリアやモザンビークでも、内戦中18歳以下の少年兵が戦闘に参加し、傷ついたり死亡したケースが多々報告されています。どうして子供たちが兵士にされるのかというと、反政府軍や武装勢力によって手っ取り早く安上がりに戦力を生み出すことができるか

らです。子供たちはこうしたゲリラに誘拐・拉致され、強制的に兵士にさせられるケースが多く、中には貧困のために子供自ら兵士に志願するケースも見られます。また、兵器の技術的進歩により、子供でも操作できる小火器（カラシニコフあるいはAK47）が登場したことや従来よりもはるかに残酷で違法性のある新種の紛争が増加したことなどが少年兵を生み出す背景となっています。

内戦・紛争終結により帰還した少年兵の多くは、心やからだに傷を負っており社会復帰も楽ではありません。仮に心身健康で故郷に帰還できたとしても、長い間教育や職業訓練を受ける機会が失われた子供たちにとって、生きる術を知らずに社会復帰することは容易ではありません。停戦から復興支援に至る過程ではDDR（武装解除、動員解除、社会復帰）がいかによりまくいくかによって戦後の復興の成否が決まってきます。そうした意味では、モザンビークはDDRの成功モデルといってよいかもしれません。

JICAではこうした紛争後の復興支援・平和構築の分野でも協力しています。



▲夏のオープンハウスでの挨拶

せかいのくから [第8回]



私のふるさと —タンザニア連合共和国

スワヒリ語 語学講師 エスター

エスター先生の生まれ故郷は、「タンザニア」の「タンガ」というところ。

首都「ダルエスサラーム」の北にある海岸沿いの町です。

もともと港町として植民地時代から発展し、キリマンジャロコーヒーやサイザル（麻の一種）の輸出港として栄えました。

ドイツ植民地時代に建設された鉄道のほ

か、アンボニ洞窟など多くの見所があり、対岸には「ダバ島」や「ザンジバル」が望めます。

キリマンジャロやビクトリア湖など、タンザニアにはたくさんの観光スポットがありますが、タンザニア旅行の際にはぜひ港町タンガによって見てはいかがでしょうか?



▲タンガの町とバオバブの木 (MKONGE [モコンケ] HOTELの庭より)



タンザニア連合共和国

次回予告 ポルトガル語 語学講師 イウザ先生 …どうぞお楽しみに!!

タンザニア連合共和国 Data

面積: 94.5 万平方キロメートル (日本の約 2.5 倍)
 人口: 3,830 万人 (2005 年)
 首都: ドドマ (法律上の首都、人口約 76 万人)
 (事実上の首都はダルエスサラーム (人口約 250 万人))
 通貨: タンザニア・シリング (T.shs)
 1 ドル=約 1,275 タンザニア・シリング (2007 年 9 月現在)



World Quiz ワールドクイズ

Q タンザニアの言葉、スワヒリ語でオートバイは"Piki Piki"と言います。では"Nyungu Nyungu"というのは、ミミズのことである。 ○か×か?



答えは④ページに

施設見学の『窓』

二本松市民約200人 が来所しました!

JICA二本松 夏のオープンハウス!

国内に2つしかない訓練所。今年、二本松青年海外協力隊訓練所は訓練開始12年目。地元の方々に、訓練所をより理解してもらうためにもオープンハウスを試みました。内容は、環境問題をテーマにした映画「不都合な真実」上映、訓練体験ができる生活技法講座やミニ語学講座、訓練所の自然を生かしたネイチャーツアー、流しそうめんなどです。来所された方々の“笑顔(^^)”が大変印象的な1日でした!

モンゴル語 語学講師のナラン先生、▼ゲルを説明中



▲ジャンベのリズムに踊りだす研修員



JICA二本松HPより施設見学申込用紙がダウンロードできます。※URL～ <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/taiken.html>

JICA用語ミニ知識 Q.「LLDC」とは?」

A.「Least among Less Developed Countries (後発開発途上国)」の略。「開発途上国」(LDC~Less Developed Countries)の中でも特に開発が遅れている国のこと。

福島出身の候補者

平成19年度第3次隊（二本松青年海外協力隊訓練所）

世界中の人々に、ほんとうの愛を送りたい……

131名の候補者が
10月10日に入所し
ました。

「訓練が69歳まで拡大！」

この秋から、「青年海外協力隊（JV）」に加え「シニア海外ボランティア（SV）」の訓練が合同となり、20歳から69歳までの「131」人が10月10日の入所式に集まりました。

今回入所したシニアは「30」人。65日間の訓練を若者たちと一緒にがんばります！



SV 大嶋 憲輝

（出身地：郡山市、派遣予定国：モンゴル、職種：撮影技術）
県内の民間放送に勤務していた50歳の春、駅の構内で見かけたJICAボランティア募集のポスターがきっかけでした。「いつかは世界へ……」多分こんなコピーだったと記憶しています。

翌日、シニア海外ボランティア募集説明会の会場で上映されたビデオでは、ボランティアの方も現地の人たちもみんな画面の中で輝いていました。

募集パンフレットをみると、自分でも応募できる要請が数件掲載されていました。

以来、定年後の応募を目標に8年間、計16回の募集説明会に足を運びました。

定年を一年後に控えた今春、「まずは一回目」と自分にいい聞かせながら受けた試験に運良く合格、いきなり夢は現実のものとなってきました。

派遣先はモンゴル国立ラジオテレビ大学、いままでやってきた仕事そのまま役に立ちます。海外ではじめての単身生活、いままで聞いたこともない言語、「不安は？」と人に聞かれますが、わくわく感のほうはるかに強く、中学生のとき、暗記するほど読んだ小田 実さんの著書「何でも見てやろう」の記憶がよみがえってきています。

任国でやってみたいことは山ほどありますが、焦らずゆっくり、同じ目線のものを見て考え、これからは締め切りに追われない制作を楽しんでくるつもりです。



JV 室井 研一

（出身地：郡山市、派遣予定国：モロッコ、職種：体育）

大学生のときにオーストリアとハンガリーで弓道の初心者講習会に参加したのがきっかけで海外に興味を持ちました。

青年海外協力隊で体育を選択した理由は、体育の教員免許状を持っているということと「教育の難しさ」、「一から授業を確立させる方法」、「指導と工夫」ということから体育を選択しました。

またフランス語を学べることから、将来はフランス語圏の弓道連盟に所属し弓道の普及活動に繋がっていきたくと考えています。

今は候補者という身分ですが、二ヶ月間の訓練を終え正式な隊員となれるように語学やモロッコでの文化、風土をしっかりと理解したいと思っています。

今は様々なことを経験して、任国でも即戦力となるように日々努力していきたいと考えています。



SV 森田 久夫

（出身地：会津若松市、派遣予定国：タイ、職種：農業指導）

任地の事務所の職員や農民のリーダーを対象に作物・有機肥料・土壌・水管理等に関する知識技術の指導普及を支援することが主な業務内容です。

この機会に農民と共に考え同じ目線に立ち行動し、地域の持つ伝統的な技術を生かし創意・工夫を尽くし、これまで培った農業分野の経験をもとに食糧の安全・安心・安定をめざした問題の解決に貢献できる活動に取り組みます。

更に、20代に青年海外協力隊となる望みを叶えられなかった後悔の念を省み、今回の応募により人生に悔いのない生き方を希望しています。

子育ての季節

— 進路相談室の窓から —

JICA進路相談室は、郡山商工会議所ビルの5階にあります。この大きな榎の木に、この春、ハシボンガラスが巣をかけた話は前号で紹介しました。

育児中の親は、どんな動物でも健気かつ融身的です。

カラエの雌も、巣の中で定期的に向きを変えるほかは抱卵を続けます…。初夏、葉にさざらっていた光が午後には直接巣を照らすようになると、親鳥は、口を半開きにして、気化熱を口から発散させ、暑さをしのぎます。

時折、雄がどこからともなく舞い降りて巣のふちに止まると、それを合図に雌は交代して、採餌や給水に向かうのですが、出かけ

▶抱卵中の雌親。口を開けているのは暑さのため。



る時、近くの電柱に止まって、ギャアギャアギャア…と何回か鳴き声をあげるのが常でした…。感謝か、不満か、開放感か、はたまた警告か？

交代した雄は、巣の中をしげしげと覗き込んだり、何かをつまみ出したりの後、巣にかがみ込むこともしますが、どこか「頼まれ仕事」めいた仕草に感じられてしまうのは、

気のせいでしょうか……。

カラエは他の小鳥の卵やヒナを襲って捕食することも多い生きものです。特に、産卵しない雄にとって、卵や孵化したばかりのヒナは美味しいごちやうになりかねない危険を常にはらみます。「保護すべき対象か」「胃袋に納めて良い餌か」の紙一重のはげまで、多くの肉食動物が雄まで巻き込んで育児をしている…その偉大ではかなげな制御機構の進化を思うと、感動を覚えるのです。

…やう言えば、子育ての頃、それなりに協力や手助けをしているつもりで、しょせん「頼まれ仕事」の域を出ず、『誠意と思いやりに欠ける!!』と糾弾されたヒトのオスもいたなあ…と、ほろ苦く思い返す、進路相談室の窓辺です…。

進路相談カウンセラー 柴崎 茂

